

宝物はすぐそばに

校内研通信

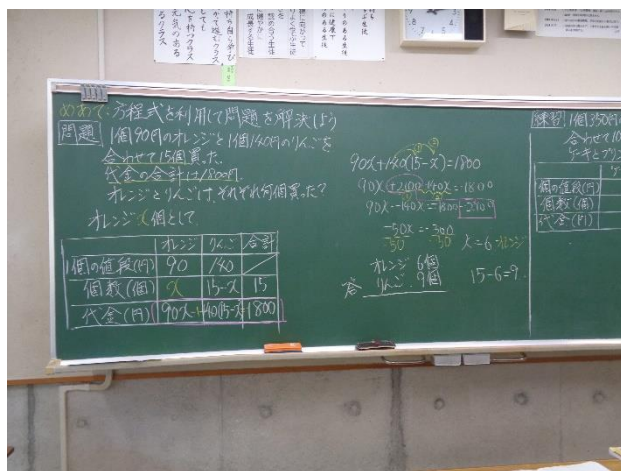
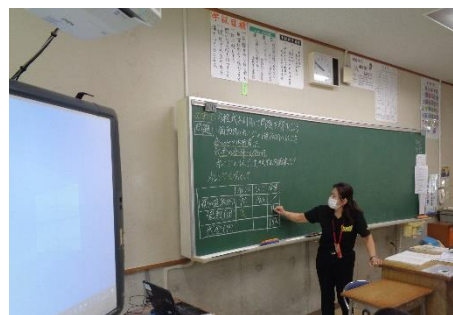
第14号

R7.9.22

発行者:校内研担当 仲村智

これが解けるかな?~怪盗Xからの挑戦状~

9月22日(月)2校時、1年6組にて神山史子先生が数学の授業を公開しました。本時のねらいは、個数と代金に関する問題を方程式を用いて解決することができるようになることです。前時までに方程式の解き方を学び課題にある数量関係を自ら立式できるかが解決のポイントとなります。導入で前時の内容を全体で確認しながら、今の自分に何ができるのかを丁寧に考えながら本時のメインの課題に向かいます。史子先生のいいなと思ったところは、まずは生徒に時間を与えて思考させ、課題解決に向けて何が足りないのか考えさせることで、その後に提示したヒント(表)の有用性や立式するための視点を生徒に実感させたところです。まだまだ、文字Xを使った方程式を作ること慣れてない生徒にも、分かりやすく丁寧に文字アレルギーをおこさないよう「解ける喜び」を与えようとする工夫がみられました。史子先生、素敵な授業をありがとうございました😊



南風原町学力向上推進委員会 かすりっ子「学ぶ」プロジェクト

【RSの視点を意識した6つの授業改善のPoint!】より

イメージ同定
(REP)

文と非言語情報(図・表・グラフ等)を正しく対応させる力

☞文章で表現された内容と図や表、グラフなどが対応しているかどうかを見極めることができるか?

例) 社会 …説明文と地図との関係、説明文と写真・イラストとの関係
算数・数学…説明文とグラフとの関係、説明文と用語解説との関係

「イメージ同定」の力を高める指導のあり方



複数の資料(文章による連続テキストや式、図、表、グラフ、写真などによる非連続テキスト)が示す情報を正しく関連付けるスキルである。示された内容を正しく理解するだけでなく、そこに内在する意味(直接的に書かれている事だけでなく、暗示的に書かれている事柄も含む)を解釈して答えなければならないような発問に答えることで鍛えられる。また、場合によってはそこに自分なりの判断や意見を交えながら答えさせる発問も効果的であると考え。